令和５年１２月号
NO.204

ふくふく住まい通信

発行責任者
㈱福地建装
北斗市中野通 324
ハウジング事業部
Tel 0138-73-5558

◇災害に備える◇

毎年どこかで災害が発生しています。地震や台風、寒波に熱中症など自然の力は強大で、時には人の命を奪ってしまいます。そのような災害から身を守るために、物質的にも心身的にも普段から備えることが大切です。

「ここの地域は災害がないから大丈夫」とお聞きすることもあるのですが、そのような地域こそ注意が必要です。実際、大地震が来ると言われ続けている太平洋側ではあまり地震が発生せずに、石川県や熊本県などあまり予測されていなかった場所で大地震が発生しています。

「ファースの家」はこれまで全国で五千棟ほどの実績があり、多くの地震を経験していますが、幸いなことに倒壊などの被害にあった事例は出ていません。

エアクララという断熱材が壁の中で地震力の軽減に作用していると考えられています。実績的に地震に強いことは分かるのですが、数値などで評価できるよう今後も研究開発を続けて参ります。

いずれにしても安全なエリアはないと考え、油断をせずにどこの場所であっても最低限のライフラインを確保できるよう意識しておくことが重要です。

◇停電時の備え◇

オール電化は停電に弱い印象ですが、現状の住宅を考えるとオール電化でなくとも停電時にはほとんどの機能は停止します。ガスや灯油の給湯器はポンプでお湯を送るので停電時には使えませんが、エコキュートであれば溜まっているお湯は使うことが可能です。IH などは使えなくなりますが、鍋などで使うカセットコンロは大方の家庭でお持ちだと思われます。停電時、オール電化の方が優位なこともあるというのが不思議なところです。

随分前になりますが、震度６強の地震が２度起きた熊本で「ファースの家」にお住まいのお客様を訪問させて頂き、床下、天井裏などから断熱材にクラックなどの問題が起きていないか調査をさせて頂きました。内装のクロスなどによじれは見られたものの、構造や断熱材に異常はなく安心しました。

北海道でも数年前にほぼすべての地域で停電するブラックアウトが発生しました。長いところでは１週間以上停電したと聞いています。

地震後の停電でお客様が困ったことと言えば、トイレが流せないこと、携帯電話の充電ができないこと、冷蔵庫、冷凍庫が使えないことが主でした。

トイレに関してはほとんどのメーカーで停電時でも流せる機能が搭載されていますので、わからない方は施工店さんやメーカーさんに確認し、停電時に流す方法を覚えておくことをお勧めしています。

停電時、煮炊きはガスコンロで出来るので、トイレの電源、最低限の照明、充電用や Wi-Fi 電源、冷蔵庫や冷凍庫の電源さえ確保できれば、ある程度の生活はできるということが言えそうです。

ファース本部ではスマートエルラインライトと言う、停電時必要最低限の電源をつなぐ分電盤を推奨しています。エコカーにお乗りの方であれば停電時、車から 1,500 ワットの電源が確保できますので、上記の項目の電源には十分です。太陽光発電と合わせて使用することで、昼は太陽光発電、夜はエコカー又は発電機、大型のポータブルバッテリーなどから給電することが可能です。

すでに停電を経験したお客様は導入率が高いのですが、そうでないエリアでは低いのが現状です。安全とされている地域でこそ採用して頂きたい設備の一つです。

◇健康維持のために◇

いざ災害に遭遇した時、動ける体力を維持することも大切なことです。
健康を維持する為に必要なことは、バランスの良い食事、程良い運動、質の良い睡眠、快適な住まい環境と言われています。

食事や運動、睡眠に関しては、わかってはいるけれど努力が伴うのでなかなか難しい、というのが正直なところです。最後の項目の快適な住まい環境は、住むことで自動的に得ることができるので、最低限押さえておきたいところです。

私自身「ファースの家」に住む前は一般的な中古住宅に住んでいたのですが、冬はとても寒く飼い猫もストーブの前からほとんど動かない状態でした。
その猫も年齢を重ねおなかの毛が抜け落ちてよぼよぼしていたのですが、「ファースの家」に引っ越したあと、いつの間にか毛が生えそろい、とても元気になったことに驚きました。家中が暖かいことで運動量が増え、体力が回復したのだと思います。体の小さなペットは、人間以上に温熱環境の影響を受けるのだと実感しました。

温度や湿度が安定している環境を抑えられた光熱費で維持できることは、精神的にも良い影響を与えてくれます。コロナが蔓延し、外出が規制されていた時でも健やかに過ごすことが出来ました。

今後も災害がなくなることはありません。災害時にも大切なご家族を守ることが出来る住宅を提供できるよう、今後も努力を続けて参ります。

（著・代表取締役社長　福地智）